

活躍人物問

vol.77

■「花」を見ることは

「心」を見ること

九良子さんが押し花に出会ったのは今から26年ほど前。福島市で開催されていた押し花展に訪れたときでした。そこで展示されていた押し花作家の安田恵先生の作品を目にした九良子さんは、スイカを使用した花絵のすばらしさに感動。ほどなくして安田先生の教室に通い、押し花を習い始めました。

「最初は野の花から始めた」という押し花も、勉強を重ね、インストラクターの資格を取得しました。

代表作の観音菩薩の作品を

作りはじめたのは約15年前。見る人を優しい気持ちにさせたり、癒しを届けたいと、常にあたたかく見守ってくれている観音様をモチーフにしました。「花を見ることは、心を見ること」「見る人の心を豊かにしたい」との思いから、これまでに16作品を作り上げました。自宅で栽培した草花のほか、貝殻など20種類の画材を1枚1枚丁寧に貼っていく超大作は、制作期

押し花で心を発信していく

間に半年や1年ほどかかりません。

■自分の道を

子どもたちへ伝えていきたい東日本大震災は、九良子さんの作品作りにも大きな影響を与えました。復興と鎮魂の思いから制作した『祈り 千手観音菩薩』は、タライ・ラマ14世が福島を訪問した際に贈呈され、チベット・ダラムサラに飾られています。「作品を通して、福島を思い祈ってもらえることはとてもありがたい」「押し花を通して、輪を広げていきたい」との思いがより強くなりました。

最近では、えぼかや小学校の遊友クラブで押し花教室やハーブを使った工作教室などを精力的に行っている九良子さん。「押し花を通して学んだ自分の道を子供たちに伝えていきたい」と考えています。

「子供たちに優しい思いやりの心を忘れないでほしい。その十分の一でもお手伝いできれば」との思いから、今日も創作活動を続けています。

今回の活躍人

鈴木九良子さん

本宮在住の押し花作家。『押し花・花九良楽』主宰。ふしぎな花倶楽部インストラクター・アーティスト。観音菩薩をテーマにした押し花作品が高く評価され、ルイ14世生誕300周年を記念して発行された『日仏芸術家偉人伝』に日本の押し花作家として掲載され、金賞を受賞した。



だいこくラーメン / 800円



変わらぬおいしさ ポリューム満点

だいこくや

■営業 11:00 ~ 15:00 / (夜は要予約)

▼姉妹で店を営む吉村美喜子さん
(右)と穴戸みどりさん



「今年で創業30年、古くからの常連のお客様が多くいらっしゃいます」と話すのは妹のみどりさん。父の夢であった飲食店経営を引継ぎ、姉の美喜子さんと二人三脚で、メニューの考案や、接客をしながら、ここまで営業を続けてきました。地元の人はずもとより、県内外からのお客様も多いそうです。

名物の「だいこくラーメン」はボリューム満点。野菜や魚介類など15種類の食材を使用し、外食で偏りがちな栄養もしっかり補えます。

昼のランチも人気で、多くの働くサラリーマンの胃袋を支えています。

SHOP INFO

- 住所 白岩字柳内 61-1
- 電話 44-3178
- 定休 水曜日
- 駐車場 約 20台

■足尾様

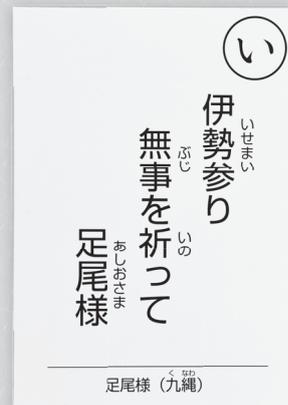
本宮字九縄 地内



本宮かるた巡礼

その二

足尾様 (九縄)



九縄には「足尾様」と呼ばれる石塚があり、その昔、車も飛行機も電車もない頃、長旅の出発前には、「足尾様」と「風神社(安達太良神社表参道中段ほどにある)」にお参りし、旅の安全を祈願していました。足尾様に草履やわらじなどの履き物を備えると無事足を痛めずに帰って来れると言われていたためです。

お伊勢参り(伊勢神宮に参拝すること)が人生一生の夢であったころは、村内で伊勢参りの講を組んで半年・1年かけての長旅でした。そのような旅の際も全員で足尾様に無事を祈ってから出発したそうです。

※足尾様は、元々は現在の位置より東の太郎丸にありましたが、平成22年に現在の位置に移設しました。